

NPO法人岡崎がくどうの会

2022年度 学童保育ひろば in 尾張旭 レポート “いっしょに子育て学童保育”～子どもを真ん中に～

【クラブ】(つくしクラブ)

【名 前】(西村 巧)

本来は岡崎で開催するはずだった「学童保育ひろば」。

こちらにもまたコロナという未曾有の魔物により延期の先の開催地変更(Zoom)という事での開催。

さてさて、尾張旭さんのお手並み拝見、という事でまずお出になったのは絵本作家の「サトシン」さんの独演会。

この方の講演は数回視聴しておりどちらかといえば裏表のない言い回しや、肩の力を抜いて聞く事のできる語り口に好感を持っている。

とめどないアイデアの宝庫は真似できないが絵本の中で何度も出てくる「自分は自分でよい」の物語はどんな世代でも通用する、ずるくも心に響く内容だった。

そんなひと時の後は休憩をはさんで尾張旭市の学童保育のあり方や運営状況などの話を聞いた。

Zoomという事と、発言しやすい環境を踏まえ、「ざっくばらんに意見交換をしていこう」、という今回のやり方に口火を切る御仁は少なく想像通りの多少のグダグダ感の否めない展開に、この後予定がなく半ば強引に参加させられていた「サトシン」がこの時少し高い酒をしっかりと呑んでいたのは後の彼のFBで知った。

しかしながらその中でも僕らとは多少人種の違う賢者の方々の小難しい話の中で、それでも気になるキーワードを探していたところ、出てきたのは「保護者の関係性の希薄化」だった。

これはこちらの学童保育所でも最近の課題となっている部分だったので余計にその声は大きく聞こえた。

中には保護者会のない民間学童保育所だったり、NPOを考えたり、時代が多様化しているのに比例するように、学童保育所の運営形態も多様化しつつあることを改めて知る事が出来た。

令和になり変わっていく事、変わってはいけない事、変わらなければいけない事など様々。

でも学童保育所の本質は、これは変わってはいけない事だと思う。

多様化の荒波に学童保育所を利用する保護者の考えや認識も変わっていき指導員も色々やりにくくなる場面も出てくる。

だからこそ、学童保育所も指導員も本質を変えず、「自分は自分でよい」の精神をもっていかなければ、と思う学童保育ひろばだった。

そして、このレポートを書きながら、今もどっかでサトシンはそんな事はつゆ知らずで高い酒を呑んでいるんだろうな、とうらやましく思った。